

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター虹		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	令和6年12月25日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの発達状態に応じた個別療育、小集団活動(音楽・運動・微細)、集団活動(リトミック)が出来る。	<ul style="list-style-type: none"> 個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。 リトミックでは、感性や運動能力の発達に加え、情緒の安定や想像力・集中力・思考力の育成を目的に行っている。大勢のお友達と一緒にリトミックを経験する中で、協調性や連帯感を育むことも働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動内容の様子は毎月広報誌でお伝えしているが、詳細を知りたいとの声が増えている。今後センター内での活動の様子をどのように発信していくか検討していく。
2	季節毎のプログラムや行事がある。	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合わせた事業所内での行事、外出行事を実施。 管理栄養士によって計画され、その季節に合った行事食を提供している。食育、調理器具の安全な使用方法、達成感を感じてもらうため調理実習を実施している。 夏季期間はテラスで水遊びを行う。水の楽しさだけでなく、危険を学び、水遊びのルールを理解できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も子どもたちが楽しめるような行事、季節を感じられる行事を計画していく。 作る楽しみや食べる楽しみだけでなく、作る過程で子ども同士の関わりの中で、主体性を発揮できるよう支援していく。 水に慣れる、水遊びのおもちゃの貸し借り、水遊びでの約束を守るよう支援を行う。熱中症対策として、こまめな水分補給と気温、湿度の確認を行う。
3	必要な職員研修が受講できる環境である。	<ul style="list-style-type: none"> 職員が研修を1年間に最低1回は受講できるよう環境を整えている。 年間研修計画がある研修実施機関のものに関しては、年度初めに受講予定を組む。途中で案内がある研修については、職員全体に周知し、参加希望者を募る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、オンライン研修の情報収集をし、研修テーマの種類を増やしていく。短時間で受講できるもの等、空き時間で研修受講できるような体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動スペースである遊戯室と各部屋がつながっている。各部屋からは、遊戯室を経由しないと移動できないため、活動がスムーズに進まないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> 建物の構造上、やむを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部屋の活動内容によっては、事前に打ち合わせをして、子どもたちがスムーズに活動できるように工夫する。
2	保育園やこども園等へ出向いての交流活動がない。	<ul style="list-style-type: none"> 初めての場所や人、大人数の中での活動が得意ではない子どももいる。そのため、交流の場を設けることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民として自由参加できるようなイベントに参加できるように計画していく。
3	各マニュアル等について、ご家族へ周知できていない。	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルは作成し、利用開始時に契約書や重要事項説明書で説明は行っているが、常に閲覧できるわけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、家族へ周知する方法を検討していく。